

名 称	東広島市ボランティア活動支援センター
所 在 地	〒739-0043 広島県東広島市西条西本町28番6号 東広島市民文化センター2階
連 絡 先	TEL：082-424-9590（直通） FAX：082-424-9590（直通）

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 東広島市 175,557人（平成18年3月末現在）

本市は、広島県の中央に位置し、周辺圏域との連携が容易な立地条件を背景に、これまで学園都市建設、広島中央テクノポリス建設などの大規模プロジェクトや広島空港、山陽新幹線、山陽自動車道などの高速交通体系の整備を進め、第2次・第3次産業の急速な伸びなど、昭和50年代後半から成長してきた。

平成17年2月には、周辺5町との合併により、新東広島市とし、豊かな自然環境・文化・歴史を活かしたまちづくり、国際・学術・技術・研究機能を活かしたまちづくり、県央の交通拠点性を活かしたまちづくりを基本目標として掲げ、「未来にはばたく国際学術研究都市」の実現に向けた施策を積極的に展開している。

また、平成15年7月からは、大学・試験研究機関等との協働による「東広島市生涯大学システム」の運用により、市民の生涯学習を総合的に支援し、生涯学習のまちづくりを推進している。

コーディネートした事例の名称、概要、特色

名称 「第15回東広島市生涯学習フェスティバル『ボランティアゾーン』」

東広島市ボランティア活動支援センター（以下、「ボランティア活動支援センター」という。）の14人のコーディネーターが企画立案し、年に一度の生涯学習の祭典、東広島市生涯学習フェスティバル（以下、「フェスティバル」という。）[開催日：11月12日（土）・13日（日）、メイン会場：東広島運動公園（アクアパーク）体育館他]において、新たにボランティアゾーン（実演・体験コーナー、活動展示発表コーナー）を設置した。そして、ボランティア活動の醍醐味等を子どもをはじめ市民が直接味わえる機会を提供した。

「ボランティアゾーン」参加グループは、公募し、より多くのグループの活動発表の場、グループ同士や参加者との交流の場となるよう努めた。

活動展示発表コーナーでは、自然保護環境・歴史文化・福祉・青少年育成・まちづくりなどに関わる16団体が活動展示発表を行った。さらに、実演・体験コーナーでは、12団体

が東広島の歴史文化とのふれあい・読み聞かせ・ものづくり・国際交流等の体験活動の場を設定した。

ボランティア活動支援センターブースにおいては、活動内容の展示発表等を行うとともに、ボランティア総合窓口を設け、ボランティア活動を始めるきっかけづくりやボランティアグループを立ち上げる方法など、市民の相談への対応を図った。

大きな特色としては、ボランティア活動支援センターと市内ボランティアグループとの連携・協力により、今回のフェスティバルにおいては、従来の活動展示発表だけでなく、参加者が直接ボランティア活動に接することができるよう、実演・体験ブースを設け、事業を実施したものである。

実演・体験コーナーにおける具体的な内容としては、ボランティアグループが日頃の活動を披露するだけでなく、参加者自身が、読み聞かせ・ものづくり・レクリエーションとしての手品等を体験できるように仕組んでいった。また、外国の民族衣装を着る体験の場を設けるなど、体験活動・ボランティア活動への興味・関心を高め、ボランティア活動を身近に感じてもらえるような機会となるよう企画した。

この事業では、実演・体験コーナーを設置することにより、参加者が直接楽しみながらボランティア活動を体感する場、ボランティアグループの活動発表等の場を、より一層充実したものと提供することができた。また、大学生・高校生等を運営ボランティアとして公募し、次世代のボランティア活動推進者の育成も図れたこともその特色である。

さらには、行政主導でなく、ボランティア活動支援センターのコーディネーターが主体的に企画立案・運営を行ったことで、ボランティア活動支援センターの体制の強化を一層図れた事業となった。

コーディネートの実際

i. 「ボランティアゾーン」の企画立案

- (a) 従来、ボランティア活動支援センターブースにおいては、展示による活動報告やボランティア相談を行い、ボランティアグループのブースでは、活動展示発表だけを行っていた。

過去のフェスティバルにおける市民へのアンケート結果において、「展示発表だけでなく、直接体験できるものにしてほしい。」という要望もあり、検討課題でもあった。

そこで、この課題を解決することにより、フェスティバルを一層充実したものとするために、ボランティア活動支援センターのコーディネーターとしても事業内容について、協議を重ねることとなった。(5月)

※ボランティア活動支援センター定例会：毎月第2土曜日に開催し、運営等に係る事項について協議

- (b) 子どもをはじめ市民には新たな学習機会、市内で活動するボランティアグループには活動発表等の機会を提供することにより、生涯学習・ボランティア活動に対す

る関心・意欲等を高めることを主たるねらいとした。

さらには、参加者とボランティアグループ、ボランティアグループ同士の交流の場としても、機能する内容にする方針も確認した。

そのためには、活動展示発表コーナーだけでなく、ボランティアグループによる実演・体験コーナーを設置し、参加者がボランティア活動を直接体験できる内容とするを立案した。（7月）

- (c) 今回、新たに実演・体験コーナーを設けることを機に、活動展示発表コーナーと実演・体験コーナーの融合を図るために、名称を「ボランティアゾーン」とし、新たなまとまりのある空間を演出することにした。（8月）

ii. 市内ボランティアグループとの連携調整

- (a) 「ボランティアゾーン」を具体的なものにするために、運営委員会（ボランティア活動支援センター、公募したボランティアグループにより構成する。）を設置し、参加するボランティアグループとの協働による事業とする案が出された。しかし、今回、初めてボランティア活動支援センターのコーディネーターが中心的役割を担うこと、そして開催までの時間的なこと等を検討した結果、ボランティア活動支援センターが企画・立案や運営の機能を担うことになった。（9月）

- (b) 「ボランティアゾーン」への参加希望については、市広報によって公募した。また、「生涯学習ボランティアグループガイド」登録グループにダイレクトメールを出し、広く参加を呼びかけた。その際、活動展示発表コーナー、実演・体験コーナー、両コーナーの参加確認、さらには実施するに当たっての要望について、回答してもらった。

参加経費は各参加グループの負担であり、参加については未知数であったが、「ボランティアゾーン」の各ブースがほぼ一杯となる状況であった。

ただし、時間帯によっては、実演・体験コーナーのブースに空きが出たため、ボランティア活動支援センターとして、創作ゲーム活動等を行うことにした。（9月）

※「生涯学習ボランティアグループガイド」：市内のボランティアグループを登録し、広く市民にその活動に係る情報を提供する冊子。

- (c) 参加ボランティアグループからの要望として多かった点は、次のとおりである。
 - ア) 活動展示発表コーナー：展示や配布物を置くスペースを十分に確保してほしい。
 - イ) 実演・体験コーナー：読書ボランティアなど、同じ分野のグループのブースを離してほしい。もしくは、時間帯をずらしてほしい。

ア、イの点については、「ボランティアゾーン」のスペースが限られる中、最大限の配慮をし、不可能な点については、事前に説明を行った。

また、参加グループの場所・時間帯等については、開催2週間前には、最終調整をし、事前に連絡をした。（10月～11月）

iii. 前日までの準備

「ボランティアゾーン」に必要なもの（参加者へのアンケート、案内表示等）については、ボランティア活動支援センターのコーディネーターが分担し、チームで作成、準備を行った。（10月～11月）

iv. 当日運営（11月12日・13日）[会場来場者数：19,780人]

- (a) 「ボランティアゾーン」の活動展示発表コーナー、実演・体験コーナーをボランティア活動支援センターのコーディネーター（14人）、公募したボランティア（大学生1人、高校生11人）、市教委事務局（2人）の体制で分担し、運営を行った。
- (b) 活動展示発表コーナーは、自然保護環境、福祉、地域活動、まちづくりの各ボランティアグループによって構成された。
- (c) 実演・体験コーナーは、歴史・文化、福祉、国際交流、地域活動、まちづくりの各グループによって、子どもをはじめ市民がボランティア活動を直接体験できる場が、演出された。

v. 成果として

- (a) 様々な分野のボランティアグループによる実演・体験コーナーを設置することにより、楽しみながらボランティア活動を、子どもをはじめ市民が体感できる場を提供することができ、生涯学習・ボランティア活動に対する関心・意欲等を高めることができた。参加者アンケートにも、直接体験することができたことに対する喜び・評価等の声が、多くあった。
- (b) ボランティアグループの活動発表の場を提供することにより、グループ内の活性化やグループ同士の交流につなげることができた。
- (c) ボランティア活動支援センターのコーディネーターが、「ボランティアゾーン」の企画・立案、運営に主体的に関わることにより、当センターの体制のさらなる強化につながった。
- (d) 運営ボランティアとして初参加した大学生・高校生にとっては、ボランティアグループの人たちと接する中で、ボランティア活動の意義や奥深さ等を体感する機会となった。

vi. 課題として

- (a) 初めての試みとしては、十分な成果があった。今後は、ボランティアグループの参加数を増やし、より内容の充実を図る必要がある。
- (b) 「ボランティアゾーン」のスペースや通路が狭く、来場者がゆったりと参加できにくい面があった。アンケートにもそうした声があった。

vii. 次回の取り組みへの改善点・留意点として

- (a) 「ボランティアゾーン」への参加数の増加及び内容の充実を図るために、平素より、ボランティア活動支援センターと各ボランティアグループとの情報交換・交流の場を設定する等、連携体制をさらに確立する。
- (b) 「ボランティアゾーン」のスペースや通路の広さは、全体との調整になるが、今回の事業が参加者に好評であったことも含め、次回はスペースを広げる方向とする。
- (c) 次回も、次世代育成の視点から、運営ボランティアとして、大学生・高校生を公募する。



ボランティア総合案内



ボランティア活動支援センターブース
(運営ボランティア大活躍)



活動展示発表コーナー



実演・体験コーナー

執筆者職・氏名：東広島市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
専門員兼指導主事兼社会教育主事 坂田 登